

テレナーシング実践研究会主催

テレナーシング実践セミナー開催概要報告

2012年10月27日(土)、本学においてテレナーシング実践セミナーが開催されました。講師とテーマは、次の通りです。

「わが国の遠隔医療の動向と今後の展望」長谷川高志氏(日本遠隔医療学会理事 群馬大学)、「テレナーシングのための情報リテラシーの基礎」亀井延明教授(明星大学理工学部)、「テレナーシングの基礎知識とエビデンス」亀井智子(聖路加看護大学)、「遠隔コミュニケーションの方法および地域ケアシステムの構築」中山優季氏(東京都医学研究所研究員)、「在宅モニタリングの方法と遠隔看護・保健指導」山本由子(聖路加看護大学大学院博士後期課程)、「海外のモニターセンター・テレナースの活動とわが国への応用」千吉良綾子(聖路加看護大学)。

セミナーの参加者は計21名で、参加者の所属は、大学、研究所、病院、IT企業にわたりました。

講義 1. わが国の遠隔医療の動向と今後の展望—長谷川高志氏から、わが国の遠隔医療の現状とこれまでの発展の経緯が説明されました。

「遠隔医療の法規、制度、診療報酬について理解することができた(臨床ナース、大学関係)」 「すでに厚生労働省が合法と認め、診療報酬もついている遠隔医療もあることがわかった(訪問看護ステーション)」 という感想が上げられました。



講義 2. テレナーシングのための情報リテラシーの基礎—亀井延明教授からは基礎的用語とセキュリティ確保の重要性と困難さが講義されました。

「医療関係者にとってなじみの薄いシステムに関する知識や用語を知る機会を得ることができた(臨床ナース、大学関係、院生、IT企業関係)」 という感想が上げられました。



講義 3. テレナーシングの基礎知識とエビデンス—亀井智子からは、テレナーシングに関する国内外の研究の動向、ランダム化比較試験による自験例、そしてメタ分析によるテレナーシングのエビデンスの呈示がありました。

「テレナーシングのエビデンスの現状を具体的に知ることができた(大学関係)」 「テレナーシングに必要な能力と知識が何かを知ることができた(大学関係)」 との感想が寄せられました。



講義 4. 在宅モニタリングの方法と遠隔看護・保健指導—山本由子からは、モニタリングのための自覚症状の集め方、導入するまでのプロトコルと指示書の内容についての講義がありました。

「具体的な遠隔看護の実践手順・プロトコルを理解できた(臨床看護師、大学関係、訪問看護ステーション)」という感想が上げられました。



講義 5. 遠隔コミュニケーションの方法および地域ケアシステムの構築—中山優季氏からは、地域ケアシステム構築と地域ケアシステムにおけるテレナーシングの位置づけの確立が重要であることが講義されました。「地域ケアにおける介護保険・障害程度区分の役割が理解できた(大学関係)」「地域連携とテレナーシングの位置づけについて理解することができた(大学・研究所関係)」という感想が上げられました。



講義 6. 海外のモニターセンター・テレナーズの活動とわが国への応用—千吉良綾子からは、8月に訪問したオーストラリア ブリスベン市、シドニー市でのテレヘルスの実際について講義されました。

「オーストラリアの発展している活動を知ることができた(臨床ナース、大学関係、IT企業関係)」「わが国でも地理的・人工的状況で共通している点があり、他国と情報共有していく必要性を感じた(大学関係、院生)」という感想が上げられました。



演習 テレナーシング・遠隔コミュニケーション演習—穴田幸雄、亀井・中山・山本・千吉良

穴田幸雄氏(株コンダクト)からは、テレナーシング用端末「生きいき HOT 和み」のシステム構成について説明がありました。その後、参加者は3グループに分かれ、「生きいき HOT 和み」を用いたテレナーシング演習を行いました。参加者からは「実際のシステム・機器を体験することができ非常に有用であった(臨床ナース、大学関係、院生、IT企業関係)」「コミュニケーションスキルと観察の重要性を理解することができた(臨床ナース、大学関係)」という感想が上げられました。



まとめ プログラムの最後に、今後参加者がどのような方法でテレナーシングを実践していけるのか、討議し、それを発表していただきました。

セミナー全体の感想・意見（自由記載）からは、

「テレナーシングの今後の可能性、海外の事例を知り、我が国における導入の可能性を感じた（臨床ナース）」「講義から演習へと続くスタイルが、理解度の向上につながった（臨床ナース）」「テレナーシングに関心を持っていたこともあり、受講した意義があった。第二回の開催を希望する。（臨床ナース）」「ビジネス面でとらえた場合の難しさを把握する良い機会となった。（IT企業関係）」ほか、たくさんコメントをいただき、充実した1日となりました。

2012. 11. 12 記録 聖路加看護大学 亀井智子